

疾走する三人の映像作家が自作を語る

世界のトップアーティストがそれぞれの自作をベストセレクションしたDVD「DIRECTORS LABEL」が来年度発表される。ここではそこに収められなかったインタビューの一部を抜粋して掲載する。

LAのストリートなら自由を スパイク・ジョーンズ

僕はもともと雑誌の編集部で働きながら、自分でスケーターたちの写真やビデオを撮っていたんだ。それがきっかけでニック・ユースのミュージックビデオに使うスケーターのフットエッジを撮ってほしいと頼まれて、その一年後にもキム・コートンからMVの共同監督を頼まれた。おそろしくキムが二度も声をかけてくれなかったら、僕はビデオの監督にはなっていないかっと思うよ。以来、いろんなビデオを撮ってきたけれど、好きなバンドのビデオをたくさん作ってこられたことが、本当にうれしいんだ。

例えばビースティ・ボーイズの仕事を印象的だったのは、ボカルのアダム・ヤウチが大規模な予算を練ったことだ。「僕らがコントロールできない予算ではやらない」って。ビースティ・ボーイズは、全部自分たちで、仲間と一緒に作るというやり方だったので、当時僕が所属していたサテライト・フィルムも、最後には彼の言うことに従うしかなかった。実際の撮影も、普通は予算に組みこまれる機材とかケータリングとかトレーラーとか、そういうものまで全部切り捨てたんだ。衣裳の話になって、僕が「知り合いなら、一日百ドルでやってくれる」と言っただけだよ。それがケイシー・ストームで、実はそれが彼の初仕事だったんだけど(笑)、とても使いきれない量の服を用意してきたよ。フリンジのついたスエードのジャケットにパンツ、それにカウボーイ・ハット。まさに裏面捜査官が着そうな服ばかりで、衣裳からいろんなアイデアをもらっただよ。以来彼には、「マルコヴィッチの穴」や「アダプテーション」でも衣裳を担当してもらっているんだ。

WAXの「California」で、全身炎に包まれた男がサンセット・ストリートを駆け抜けていく映像は、自分でも緊張した体験だった。ある日電話がかかってきて、一週間以内にビデオを作って、二週間以内にはオンエアしないと告げられたんだ。その電話の途中で、「LAの通りを火炎バムで走る男をスロー・モーションで撮影する」というアイデアが浮かんだ。さらにそれを見ているのが、クルマに乗った小さな女の子というアイデアは、クルマでロケハンしているところを延々と描いた映画です。撮影はバリーから百キロほど離れた森の中にあるスタジオで行い、持ち主の友だちと一緒に準備をしました。だからしょっちゅうバリーから森まで、夜、クルマを走らせて、木の枝葉を通り抜けて通ったんです。そのときヘッドライトに引き寄せられてフロントガラスにあたる小さな虫とか、樹を照らすライトとか、夜の空の暗い青の色、そういうものにもインスパイアされました。

ビデオができ上がったとき、僕はかなり落ち込んだんです。彼女がその後すぐツアーに出てしまえば連絡がつかなかったため、反応がわからなかった。結局それからビデオを六本一巻に作ったので、だぶん気に入ってくれていたんだと思います。

Spike Jonze

僕はそもそも解剖が好きなんだ クリス・カニンガム

初めてオウチカのミュージックビデオを撮ったのは九五年。その頃は特殊効果の仕事に別居し始めていて、徐々に写真と映像への興味が増してきた時期だったんだ。もともと映画への興味が強くて、キューブリックの「A.I.」の特殊効果工屋チームの仕事に依頼されたときは、うれしくてすぐに引き受けたんだけど、一年間この映画に関わっているあいだ、頭にあつたのは、ビデオの仕事がしたいということだった。だからその仕事をしながら、空いた時間にオウチカのビデオを撮ったんだ。

当時は音楽にタイミングを合わせて、なにか動くものを作りたいという考えに取り憑かれていた。ぼんやりと機械の壊れ具合に合わせて分解していくというイメージだけあって、で、うちの裏庭にいるいろいろな機械の部品を集めて模型を作り、それを撮影したフットエッジでビデオを作ってみたんだ。それを見たバンドのメンバーが、ものすごくがっかりしたのを覚えているよ。(笑) そのとき、あんなにアイデアをちゃんとした映像にまで持っていくのが、最低限ディレクターがしなくてはならないことだというのがわかったんだ。だからアブストラクトな映像を制作するという野望は、とりあえず捨てることにしたんだよ。もちろんもつと経路を積んでから、もう一回挑戦する気持ちを持ったままね。

僕は以前、彫刻をやっていたけれど、そもそもは解剖が好きなんだ。特に人間のからだの構造に興味があって、絵画や彫刻もそれで始めたし、からだに関する映像を作る理由もそこにある。彫刻にない要素は、音だ。音も大好きで、映像と音楽をいり始めたとき、これは自分のものだって感じたんだよ。

マドンナの「Frozen」は、僕が初めてビッグ・アースと一緒にやった仕事だ。彼女は「Come To Daddy」のビデオにだれよりも早く反応して、彼女から会いたいと言ってきたんだ。当初の構想では、モーション・コントロール・カメラも使って、砂漠でペリコプター撮影する予定だった。でもモーションが来て、機材は水濡しになるし、四日間の撮影期間も二日に削られてしまったので、かなり変わってし

Chris Cunningham

人の手はしこに順応して進化した ミシェル・ゴンドリー

僕とビョークは、どちらの間親もやりたいうことを何でもやらせてくれるという環境で育ったので、初めから語り合えることがいろいろありました。ビョークと仕事をするときは、彼女が六〇%かそれ以上のアイデアを出してくるんです。彼女はものすごく抽象的な、そして直感に導かれた言葉を使います。例えば「Human Behaviour」なら人間の行動とか性格に関する歌だから、ビデオでは人間がいかに狂っているかわかるように動物を使ったりどうかとか。実際、それが僕と彼女のコラボレーションの出発点になりました。

これはエーリ・ノルンエイトの「霧に つつまれたハリネズミ」の影響も受けています。僕が世界で一番好きな映像のひとつで、霧の中にいるとどんな気持ちになるかを延々と描いた映画です。撮影はバリーから百キロほど離れた森の中にあるスタジオで行い、持ち主の友だちと一緒に準備をしました。だからしょっちゅうバリーから森まで、夜、クルマを走らせて、木の枝葉を通り抜けて通ったんです。そのときヘッドライトに引き寄せられてフロントガラスにあたる小さな虫とか、樹を照らすライトとか、夜の空の暗い青の色、そういうものにもインスパイアされました。

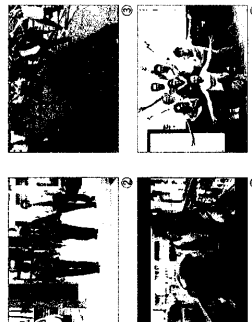
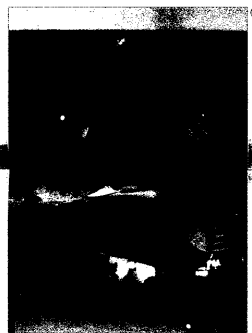
ビデオができ上がったとき、僕はかなり落ち込んだんです。彼女がその後すぐツアーに出てしまえば連絡がつかなかったため、反応がわからなかった。結局それからビデオを六本一巻に作ったので、だぶん気に入ってくれていたんだと思います。

ケシカル・フーズの「Let Forever Be」は、初めからビデオ撮影したいと思っていた作品です。七〇年代にイギリスで放映されていたテレビ番組を思い出すと、室内はビデオの引き寄せられた映像なのに、屋外は16ミリの。子供ながらに、これは全然つながってないと思うって、でもチャーミングに感じたんです。で、「Let Forever Be」も半分はビデオ、半分はフィルムで撮って、そこは見えないうちに近づきました。

ここにはもうひとつ重要なアイデアがあるんです。七、八〇年代のビデオ・エドワーズ——映像が万華鏡のようになった

Michel Gondry

The works of Spike Jonze



- ① Fatboy Slim / Weapon of Choice (01)
- ② Beastie Boys / Sabotage (94)
- ③ Björk / It's Oh So Quiet (95)
- ④ Duff Punk / Da Funk (97)
- ⑤ Short Film / Torrance Rises (99)

この10年間のミュージックビデオを牽引してきたスパイク・ジョーンズの代表的なミュージックビデオに加え、ショートムービーやドキュメンタリー作品、ピースティ・ボイズ、ビョークほかミュージシャンのインタビュースタッフ映像を収録。

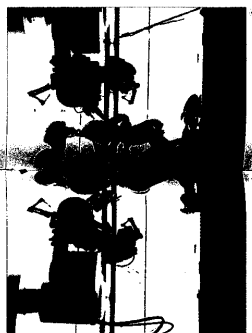
きに思っていた。とにかくシンプルで、編集もその口も喋らないけど、一発撮りだから大変。わずか12秒くらいの撮影だけだ。スタッフ、エキストラが一秒ごとに何をやるのか決まっている。さすがに僕もナースになって、スタントは頑張っても、撮影後かうまくいかなかったりもした。なにしろ一箇所でもうまくいかなかったら、全部台無しだからね。

このビデオに限らず、ロケ地を考えると、僕はいつもLAのストリートが思い浮かぶ。これはぼくにとって、クルマを運転したり、スケートの写真やビデオを撮ったり、スケートボードで壁を登るのを撮りたいという、ずいぶん長い時間を過ごしたからね。だから街中のフリー撮影ができるし、ストリートがまるで大をな遊び場みたいで自由に動けるんだ。それはWAXのときもそうだし、ビョークのビデオもそうだ。

「It's Oh So Quiet」のビデオを撮ることになったのは、ビョークのレコード会社から、それと「Hyperballad」が送られてきて、こちらの映像を作りたいか聞かれたんだ。「Hyperballad」はとっても美しく、ぜひ自分も映像をつくりたいと思った。でも「It's Oh

Spike Jonze

The works of Chris Cunningham



- ① Björk / All is Full of Love (99)
- ② Madonna / Frozen (98)
- ③ Apeex Twin / Windowlicker (96)
- ④ Autechre / Second Bad Vibes (96)
- ⑤ Short Film / Flex (00)

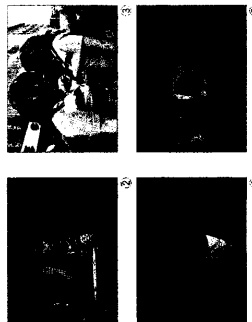
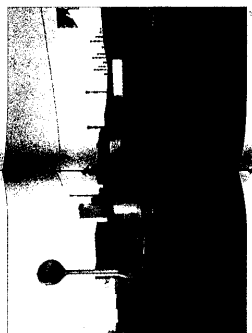
エイフェックス・ツインやビョークほかの代表的なミュージックビデオに加え、世界の美術館でセクション「Flex」の「Monkey Drummer」(All is full of Love) メイキングほかを収録。

まったんだ。最初は、たくさんの人形が砂漠にあつて、アトナナからだから作ったりアルな像が一瞬にして崩れ落ちると、それがまた変わって、さらに大に変化する。絵画的な風景のアトナナで、いろいろな形に変化する黒いドレスだけで、ほかの要素を排除して考えていた。「いくつかの映像」で「ひとつのアイデア」を探るという感じだ。結局は、断片的に撮影したものをつなぎ合わせる、なんとなくもとの企画に似たものを作ることになったんだ。このビデオを作ったあとで僕らにんだんだ。頭の中にあるイメージがあまりすぎて、首尾よくしたものを構成できなかったんじゃないかって。

あの衣裳については、その年のジャン・ポール・ゴッティエが、素晴らしい美しいドレスのコレクションを手がけていて、そのドレスを借りてもらってアトナナに試されたんだ。僕としては、ぜひという感じで、ある日の午後をまるまる使って、ドレスを全部試してみた。僕が求めているのは、ゴシックとシモン・W・ウオーターハウスの混合みたいなものだ。彼の絵画は僕のバックミの源のひとなんだ。ええ

Chris Cunningham

The works of Michel Gondry



- ① The Chemical Brothers / Star Guitar (01)
- ② Björk / Human Defector (03)
- ③ Björk / Human Defector (03)
- ④ The Rolling Stones / Like a Rolling Stone (95)
- ⑤ Short Film / La Lettre (98)

ベンク、ビョークなどのミュージックビデオに加え、リーバイス、スミックスといった過去のCM作品や、フィルム、はかに監督やミュージシャンのインタビュースタッフ映像などを収録。

り、アサガオの形に開いたり、フィードバック・エフェクトに与える効果を、振っただけで再現したいと思ったんです。

物語は普通の生活を送る女の子がいて、ある朝、彼女が突然文化用品屋の仕事に選ばれることになる。でも彼女の心は、自分がダンサーである空想世界に引き寄せられていく。その世界はすべて、それぞれの空想のシーンになる。本物のダンサーを使わずにリアルタイムで彼女の姿を捕獲させ、ビデオ・エフェクトのようにしました。空想世界は、エフェクトを使つたのは、現実世界から人々ビデオ・エフェクトに変わることをあいたを一つなくヒーリングだけで、空想の動きに完全に一致するように構想するダンサーを制作しました。一人のキャラクターが機械に支配されるような、映像が万葉集のようになることをシミュレートしたのです。

「Star Guitar」のビデオは、楽のオリイエと一機に作りました。アトナナ自体は昔から持っていたもので、最初は、窓の灯りがメロディとシンクロして、灯りたり消えたりするものを考えていたんです。

Michel Gondry

リーはなしで、可能な限り何日も使ってアイデアが出てきたらそれを撮るというふうにやっていた。ただ撮影を始める一、二日前に気がついたんだよ。自分のビデオ・カメラには高性能のマイクもついているし、もともと彼にはいろんな質問をしてみようと思っていた。ならばそれを撮ってみよう。で、質問を繰り返すうち、彼は全部を告白してくれるようになった。彼も自分の重たい体験を、話すことで昇華しようとしていたみたいだ。

雑誌の仕事は長いあいだやっていたのが、その点で役に立ったと思う。だれかにインタビューに行くと、その相手を理解して、記事にまとめないといけないというのには、トキエヌタリーと非常に似ているからな。興味がある人に会うのは、僕には丁度よかった。たいてい興味もない人について書くけど、記事はだいたい一般的なものになる。それは、ジテオでも同じで、自分がじつとこないアーチストのために作ったジテオは、いろいろになったことはほとんどない。ジテオのアイアや曲を気に入っていたり、バンドのことが好きで、とまにはうまくいかなければいい機会もあるけどね。

なデザインが僕は大好きで、だからEヨークから“白い天国”みたいな映像を、という依頼があつたとき、それは唯一僕にできることだと感じたよ。

その後、エイフエックス・サインの「flex」で、僕は再びアブストラクトな映像に復帰した。今度はシングルビートを作るだけでなく、機かりチャートにテーマを説明して、曲がサウンドトラックをデザインしてもらう。それで音に合うように映像を作っていく。ちょうどこのアイディアをリチャードに相談していたとき、ギャラリーから僕の短編をファイナンスしたいというオファーがあったんだ。この作品で、僕はアブストラクトな解剖学的な映像を作ってみたかった。激しいやっやっく、多量の血、筋肉、激しい呼吸、精液、これらがすべて夢のような漆黑の空間で溢るんだ。

でもオウチカのとこと同じく、僕は絵画的で抽象的だけど、直接的な表現につながるようなビジュアルを作ろうとしていたのかもしれない。この作品の、特に最初の部分は、完全に思い通りにできたと思う。その部分が、研磨されてDVDに収録されているよ。

手でキスを交わす恋人たち、壁に広告を貼っている業者、うろついている犬と自転車などがカメラに写りこんでくる。

道を何本か渡つて角を曲がると、カイリーは一分前に自分が出てきた店の前にまゐりました。ところが「一分前のカイリーが、同じ洗濯物を持つて、同じクリーニング屋から出てきて、僕らが先導して来たカイリーの後を歩き始める。彼女の後では、果物を賣つてゐる人も一組になり、子供たちも同じもう一組の隣でけんかをし、恋人たちも憎になつて……と、みんなが一週目と同じことを繰り返しながら、隣で二週目に入つた続きの行動をしている。さらにカイリーが三週目に入ると、またちやと最初のカイリーがお店から出て来る。

基本的にカイリーが一周することにより、全
部の登場人物が増え、街の振りつけはどん
どん複雑になっていきます。カイリーがい
つも同じ出発点に戻ってくるのは、遺筋の
眠くなるような反復性の反映です。曲の幾
何学性によって、曲の同じ部分で毎回カイ
リーが道の同じ場所に現れるようにでき
る。ですから、同じ場所でも毎回全部のカイ
リーがそこから同時に舞臺へ入ります。

[illegible]

Wax 《California》

im gonna move to southern california
got me a ride
and a reason to ignore you
got me a radio
aint got no speakers
aint much use
so im leaving it
leaving it for you
im leaving it for you

could be by for you

gotta find a room
and im running out of money
staying out late
but i gotta get up early

why did i move to southern california?
smile gets so blue
someone shoulda warned you
they shoulda warned you

could be by by
could be by for you